

この施設は大きく3つの構成要素からできています。3つの要素というのは、樹木、ベルト、建物です。これらは時間や季節によって違った風景を作りだし、この場所に訪れる人に新しい発見と行動を促したり、いつ来ても飽きることのない空間をつくりだすのに必要不可欠な物です。

#### 樹木

この施設では8m間隔のグリッド状に木を配置しています。車の車路、駐車場などの機能的な寸法から導き出した間隔をグリッド状に配置することで人や車が自由に動きやすい状況をつくりました。また、グリッド状に配置しているため道路を走っている車からは見え方に变化を与えます。角度によって大きな木の塊のような見えたり、中が見透かせたりするのでこの付近のランドマーク的な存在になります。

樹木は落葉樹のケヤキなどを想定しています。建物は平屋で計画し、林の中に隠れるように建っています。夏に近づくにつれて葉が建物を覆い隠していき、覆った葉が建物内部の空調負荷を軽減させてくれ、駐車場の照り返しを抑えます。また、冬が近づくにつれて葉が落ち始めると、徐々に建物が姿を現し、日射を確保していきます。

#### ベルト

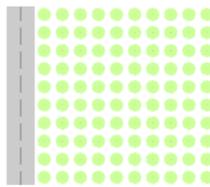
ベンチのようなテーブルのような帯(ベルト)状の板が敷地に点在しています。人の行動を呼び起こすには適切な家具が必要です。ただ木が生えているだけでは、その場所でのような行動をとつたらよいか悩んでしまいます。このベルトは73cmの幅を持っており、ベンチやテーブルに使えるように高さを設定してあります(詳しくは別紙)。大切なことは、その存在の仕方です。たくさんあるベンチがベンチにしか見えないと、人がいない季節や時間帯はとても寂しい光景ができあがってしまいます。ここでは人の行動にまつわる物を全てベルトにからめて作ってあります。なので一見すると一つの帯が繋がっているように見えます。これを整然と並んだ樹木とからめることで、単なるベンチではなく樹木と一体になったアートとして捉えています。これは人のいない時間帯でも寂れた感じをなくし、一人で訪れても犬の散歩にきて、楽しめる環境をつくり出すことができると考えています。

#### 建物

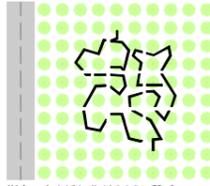
建物はあくまで訪れる人の行動を補助するための物に留めており、必要以上に大きくとっていません。中央部に屋根だけのかかった半屋外部分を設けることで、朝市やフリーマーケット等のイベントを発生しやすくさせ、人の活動を誘発させるようにしています。そこからウイングが延び、サロン・情報スペース・売店などの必要最低限な機能を設けています。ウイングのメリットは機能上必要があれば増築もしやすい構成であることです。

#### 変化する景観

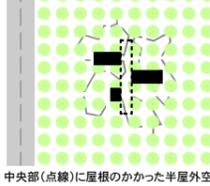
この3つの構成要素しかありませんが、季節・時間ごとに多様な景観を作り出すことができると考えています。ベンチはくねくねと折れ曲がり、昼間は整然と並んだ木の中で存在感を發揮し、夜は木の根本に照明器具を設置することで、こんどは点々と木の存在が浮かび上がる光景を作ることができます。また、樹木を落葉樹とする事で季節ごとの景観は劇的に変化していきます。この施設を訪れる人が、これを楽しみに繰り返し利用するための仕掛けです。



8mで構成された木のグリッド。



樹木の中を折れ曲がるように繋ぐベンチなどの帯(ベルト)。



中央部(点線)に屋根のかかった半屋外空間。そこから延びるウイングが屋内空間。



# 海上町「道の駅」計画案

UNAKAMI michinoeki PROJECT

#### 敷地周辺状況

交流施設2は将来の主要道路沿いを想定しています。現在、周囲は畑に囲まれ、いくつかの雑木林や民家が点在しています。将来広域農道に接続するような主要道路になると考え、このような豊かな自然環境にコンビニエンスストア、ガソリンスタンド、ファミリレストランなどの郊外型の商業施設が、点々ですが建ち並ぶことが想定されます。

#### 敷地の特徴

この場所は延々と続く道路の中でも、特徴的なトンネルの付近に位置する、転換点といえる場所です。環境的にも、ここを境に水田地帯と畑という違いが生まれており、印象に残る地点といえます。このような場所に交流施設を計画することは、ドライバーにとって記憶に残る場所になり、適していると考えられます。

#### 建物のあり方の問題点

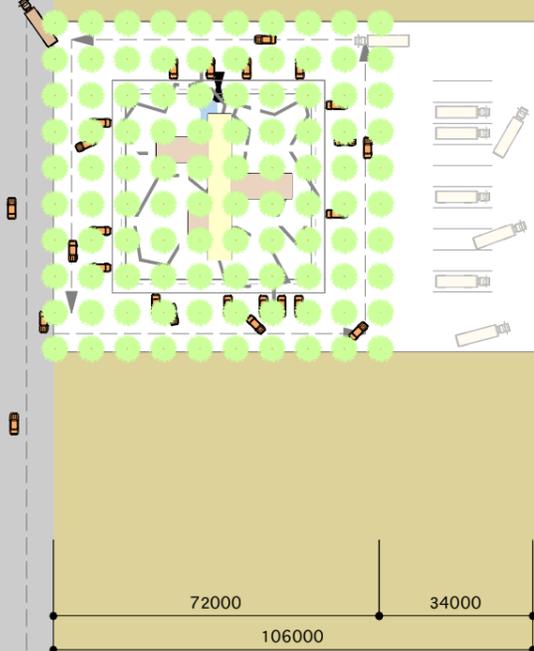
このような敷地に施設を建てるときには、周辺にも商業施設ができることを考慮する必要があります。ほぼ同時期に建てられたものが点々と散在する様は、周囲から浮いた印象を与えることになりかねません。また、郊外型の施設は駐車場ばかりが目立って、殺風景になりがちです。また、アスファルトの照り返しなどの面でも、環境が悪化します。さらに、ここに利用者が少ない場合などは、誰もいない広大な駐車場がひろがるだけで、人気がないとドライバーが判断すれば、さらに人を呼び込むことが難しくなります。

#### オアシス・木立の中の施設

以上のことをふまえて、このような場所には長いドライブ途中のオアシスとなるような場所。さらに周辺住民にも親しみやすい環境整備が必要となります。ここでは木立に囲まれた公園的な雰囲気を持つ施設を提案します。一見すると建物が見えなく、ただの林のような状態ですが、「道の駅」のような施設は最近多く建てられており、ドライバーに「また同じようなもの」と言う意識で利用されるよりも、本当の休息に適した場所になると考えられます。また、周辺には自然のままの雑木林などが存在しますが、昔のように生活の一部として利用されていないため、手が付けられない状態で放置されていることが多く、なかなか人が踏み入れる状態になっていません。そのような中で、周辺住民にとっても、この木立に囲まれた施設は、自然に触れ合う公園のような使われ方が可能になると考えられます。

#### 樹木の配置

ここではケヤキのような樹木を、ほぼ正方形になるように配置しています。これは見通しの利く道路沿いに、きれいに並んだ木立がリズムを生み出し、看板などがなくても、ここが意図を持って計画されたことをドライバーに知らせることができます。また周辺の自然環境に対して、新たに整然とした並び方で木を植えていく行為は、ランドスケープ的なアートとしても成立する事を意図しています。1970年ごろからアメリカの広大な自然の中で行われてきたアートのムーブメントは、手の付けられていない自然の中にアートを挿入することで、さらに自然を発見し、自然とアートの双方がなくてはならない関係を生み出すという効果をもたらしました。ここでも自然の雑木林や畑に対して、本来有機的に存在するはずの樹木を幾何学的に整列させることで、周辺環境に対する新たな自然のあり方を提示することになります。



72000

72000 34000

106000

敷地面積: 約 7632㎡  
建築面積: 約 320㎡

